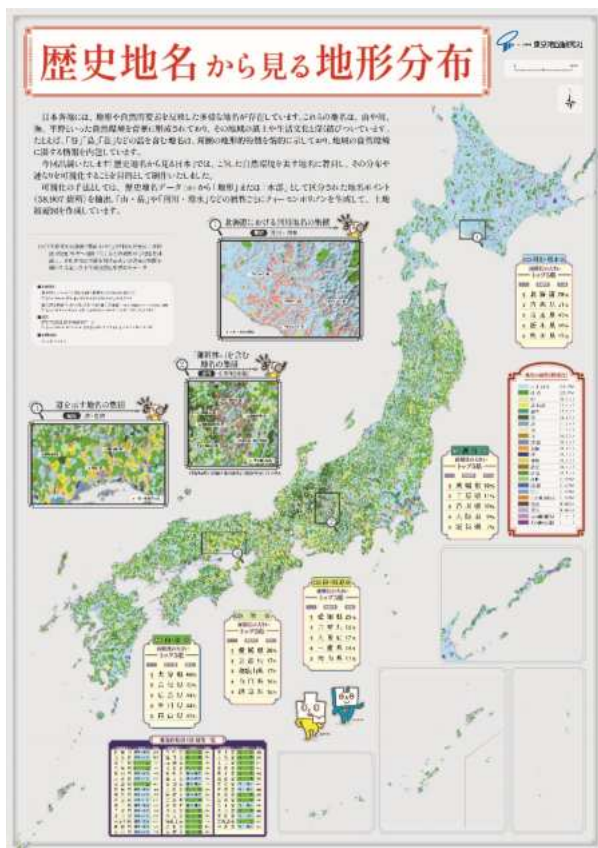


『歴史地名から見る地形分布』

荒松 拳・齊藤 祐紀子（株式会社 東京地図研究社）

日本各地には、山や川、海、平野などの自然環境に由来する多様な地名が存在しており、地域の風土や暮らしと深く結びついてきました。「谷」「島」「岳」などの語（総称詞）を含む地名は、周辺の地形をよく表しており、自然環境に関する手がかりを与えてくれます。

本地図「歴史地名から見る日本」では、人間文化研究機構および H-GIS 研究会が整備した歴史地名データ（『大日本地名辞書』（明治 33 年）、『旧 5 万分の 1 地形図』（明治 29 年～昭和 10 年）等をもとに、地名を抽出し位置を比定した緯度経度付きデータ）を用いています。このデータに含まれる 58,907 箇所の地名ポイントのうち、「地形」または「水部」として分類された自然地名を対象に、「山・岳」「河川・用水」「海域・灘」「道・街道」などの属性ごとにティーセンポリゴンを生成し、土地被覆図や地形分類図のように地表面を地名の属性で分割しました。これにより、地形的要素である水部、山地、丘陵、平野と、人文的要素である道や林野に関する歴史的な地名の空間的分布傾向を視覚的にとらえることができます。



本地図上では、水に関する地名が河川の集水域や低地に多く分布し、山や峰などの地名は地形の高まりとよく一致しています。こうした地形と結びついた地名の分布は、自然環境が人々の土地認識や居住・利用に与えた影響を示し、複数種類の地名が集中する地域では自然と暮らしの関係性が浮かび上がります。

また、道や林野に関わる歴史的・人文的な地名は、街道や国有林（御料林）して見られ、かつての交通や土地利用制度の背景を示しており、地形的要素と重ねることで、歴史的景観の一端を読み取ることが可能です。本図では、これらの傾向を視覚的に明示するため、事例地域を拡大して表示しています。

- ① 開発が進む前の北海道では水部に関する地名の広がりが見られ、河川網との関連が見て取れます。
- ② 江戸幕府の森林の直轄地が多かった山梨や長野では御料林に関連する地名がまとまって分布し、人為的な森林管理の歴史を読み取ることができます。
- ③ 交通網が発達していた岡山周辺では「道」に関わる地名が帯状に集積し、歴史的な交通ネットワークの痕跡が浮かび上がっています。

地名は単なる地理的な目印にとどまらず、地域の自然環境や人々の暮らし、歴史的経緯を映し出す文化的な情報です。本地図が、地名の空間的な分布とその背景にある自然や社会との関係に着目することで、地域理解の深化や新たな地理的視点の獲得につながることを期待します。